

エレミヤ書 23：23～24

使徒言行録 1：6～11

「天におられ、片時も離れず」

(ハイデルベルク信仰問答 問 46～49) ※問答は「日々の祈り」をご覧ください。

【前奏】

【招詞】 詩編 95：1～2

【祈祷】

【聖書】 エレミヤ書 23：23～24、使徒言行録 1：6～11

【説教】 「天におられ、片時も離れず」

<なぜ天に？>

この教会の主日礼拝では、毎週『ハイデルベルク信仰問答』という信仰の教理の本を基に、聖書の御言葉を聞いています。

今日の該当箇所は問 46～49 で、とても長いところですが、ここは教会の信仰箇条である「使徒信条」の中の、「天にのぼり」という告白について語っています。

わたしたちの救い主であり、神さまとわたしたちの間に立って執り成して下さる仲保者、イエスさまは、十字架にかかって死なれた後、三日目によみがえり、そして天に上られました。死んで、よみがえって、天に上られた。これが、わたしたちが信じていることです。

まず、神の御子イエスさまは、神さまに背いて罪を犯したわたしたちが、神さまの怒りを受け、裁かれ、神さまから断絶される呪いの死を死ななくても良いように、わたしたちの罪を担うため、まことの人となって、この世に来て下さいました。

その地上のご生涯では、イエスさまは、わたしたちが経験する、いやそれ以上の、あらゆる痛み、苦しみ、悩み、悲しみを、ご自分の身に引き受けられました。

そして、わたしたちすべての人間の罪を担って、イエスさまがたったお一人、罪人の代表のようになって、苦しみを受け、裁きを受け、十字架につけられたのです。

本来はすべての罪人が味わうべき、神さまから断絶される、罪の裁きの死を、絶望の死を、呪いの死を、罪のないイエスさまが、ただお一人で引き受け、死んで下さったのです。

そして、父なる神さまは、このイエスさまの十字架の死によって、すべての人の罪の贖いが成し遂げられたことを、イエスさまを死者の中から復活させられることによって、明らかにして下さいました。

イエスさまの復活は、わたしたちの呪いの死の克服です。この方の十字架の死によって、わたしたちは罪から解放され、もはや罪による裁きの死は免れたのです。ですから、わたしたちは、もう、生きるにも、死ぬにも、永遠に神さまから離されることはありません。

だから、わたしたちがやがて地上の命を終えても、それはもはや、眠りにつくようなものです。やがて終わりの日には、神さまの栄光の内に、わたしたちもイエスさまと同じように、復活に与らせていただける。イエスさまの復活は、その希望を示す、確かな保証です。

そして、この復活のイエスさまは、天にあげられました。今日読まれた使徒言行録の1：6～11は、まさにそのイエスさまの昇天の場面が語られています。

復活なされたイエスさまは、弟子たちに現われて下さり、40日間も共にいて、神の国のことを教えて下さいました。そして、今日の御言葉にはこうありました。9節「イエスは彼らが見ているうちに天に上げられたが、雲に覆われて彼らの目から見えなくなった。」

なぜ、復活のイエスさまは、天に上げられたのでしょうか。

教会の信仰を言い表した「使徒信条」は、イエスさまが「天にのぼり」の後の方に、「かしこより来りて生ける者と死ねる者とを審きたまわん」と告白しています。

そのことから、今日の『ハイデルベルク信仰問答』の間46は、このように語っています。

「問46 あなたは「天にのぼり」をどのように理解しますか。」

「答 キリストが弟子たちの目の前で地上から天に上げられ、生きている者と死んだ者とを裁くために再び来られる時まで、わたしたちのためにそこにいてくださる、ということです。」

イエスさまが天に上られた。そして、再び来られる日、終わりの日まで、天におられる。それは、「わたしたちのためにそこにいてくださる」のだ、ということです。

どうして、復活なされたイエスさまが天におられることが、わたしたちのためになるのでしょうか。

<片時も離れず>

ここで、『ハイデルベルク信仰問答』は、素朴な疑問を口にします。次の問47です。

「問47 それでは、キリストは、約束なされたとおりに、世の終わりまでわたしたちと共におられる、というわけではないのですか。」

マタイによる福音書には、イエスさまが復活された時、弟子たちに「わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる」と約束なされたことが記されているからです。

世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる。イエスさまはそう言われました。

それなのに、なぜ弟子たちを置き去りにして、天に行ってしまうのでしょうか。ずっと地上で、弟子たちのそばにいてくださる、ということは出来なかったのでしょうか。

…でも一方で、もしイエスさまが、天に上られなかったら、どうなっていたでしょうか。復活し、生きておられるイエスさまが、地上に留まられて、このわたしたちの歴史の中の、地上の時間軸の中に存在し、世界のどこかの場所におられるのだとしたら。

そうだとすると、復活のイエスさまにお会いできるのは、ある特定の時代の、イエスさまがおられる場所にいる人たちだけ、ということになるでしょう。その場合、わたしたちは、そこまでお会いしに行かなければならない。全国ツアーじゃないですけど、昨日はアメリ

カ。今日は中国。来年は日本におられるかも。それこそ、いつも共にいる、というわけにはいきません。

イエスさまが、死者の中から、復活の体をもってよみがえられた、とは、まずそういうことなのです。イエスさまは、神の御子でありますが、まことの人となられたのですから、見て、触れて、存在する「体」をお持ちなのです。

その復活の体は、今わたしたちがまどっているような体ではなく、もはや朽ちない体であり、栄光の体である、と聖書では語られています。しかしともかく、イエスさまが復活なさった、というのは、そのイエスさまというお一人の人格を持つ方が、復活の体をもって、確かに生きて、存在しておられる、ということなのです。

復活のイエスさまは、魂だけの幽霊で、弟子たちに現れたのではありません。また、復活とは、概念のようなものではありません。弟子たちの思い出に生きているとか、心の中で語りかけて下さるとか、そういうことではないのです。

復活なさった。イエスさまは、死者の中から、体をもって、よみがえられたのです。

その復活の体を持つイエスさまが、天に上げられた。天、というのは神さまの御力が満ちているところです。それは、時間も、空間も、超えているところ、ということなのです。

イエスさまは復活の体をもって、その天に入られた。だから、地上で、お姿は見えなくなったのです。

しかし、それでイエスさまが、地上を生きるわたしたちから、遠く離れてしまわれたのではありません。イエスさまは、天に上られた後、弟子たちに、わたしたちに、聖霊を遣わして下さいました。聖霊は、天におられるイエスさまと、地上のわたしたちを、結んで下さるお方です。

ですから、聖霊のお働きを通して、天におられる復活のイエスさまは、わたしたちが、いつの時代に生きていても、どの場所に住んでいても。片時も離れずに、共にいて下さることがお出来になるのです。

このお方は、まことの人となられましたが、まことの神であります。イエスさまは肉をとって、まことの人となられたゆえに、その復活のお体は、天にあります。まことの神であられるゆえに、聖霊によって、時間も、空間も超えて、いつもわたしたちと共にいて下さるのです。(問 47 答、問 48 答)

イエスさまは、十字架で死なれ、復活なさり、そして天にあげられてもなお、わたしたちのために、まことの人であり、まことの神であります。

そして、聖霊によって、わたしたちとご自身を深く結びつけて、片時も離れず、世の終わりまで共にいて下さるのです。そして永遠に、神さまとわたしたちとの間に立ち、永遠に、わたしたちの仲保者でいて下さるのです。

<わたしたちのために>

だからこそ、そのようなイエスさまが天にいてくださることは、わたしたちにとって、大きな慰めであり、計り知れない恵みがあるのです。

『ハイデルベルク信仰問答』の間 49 には、そのことを三つに分けて教えています。

[①天の弁護者]

まず一つ目は、「この方が天において御父の面前で、わたしたちの弁護者となっておられる、ということ」です。

わたしたちのために十字架にかかり、わたしたちの罪を贖い、わたしたちのために死に、そしてわたしたちのために復活して下さったお方が。今、天において、父なる神さまのもとにおられ、わたしたちを弁護して下さっている、というのです。

わたしたちは、神の御子が、その命を捨てて下さるのでなければ赦されないほどの罪を、父なる神さまに対して犯していました。そして今や、その罪は赦された、と宣言していただいたのに。わたしたちは、その救いの恵みを感謝して歩むどころか、未だ、神さまの恵みを疑うことがある。御心に背くことがある。神さまの思いではなく、自分の思いに従って歩み、隣人を傷つけたり、目を背けたりしている。そうして、父なる神さまを怒らせ、悲しませるような行いを繰り返しているのです。

しかし、そのたびに、イエスさまがわたしたちのために執り成して下さる。天で、父なる神の面前で、イエスさまが弁護して下さる。この者は、わたしが罪を償いましたから、どうか赦しの中に置いて下さい。わたしがこの者の裁きを代わりに受けましたから、この者を決して裁かないでください。わたしの命を、この者のために差し出しましたから、どうか繰り返しこの者を赦してやって下さい。

わたしたちは、ご自分の命をかけて罪を執り成して下さる、最強の弁護士を、天に持っている、というのです。わたしのために、いつも祈り、いつも執り成し、そしていつも共にいて、正しく導いて下さるお方が、わたしたちのために、天にいて下さるのです。

[②天に入る保証]

そして、イエスさまが天におられることの、二つ目の恵みは、ハイデルベルクにこう書かれています。「第二に、わたしたちがその肉体を天において持っている、ということ。それは、頭であるキリストが、この方の一部であるわたしたちを御自身のもとにまで引き上げてくださる、一つの確かな保証である、ということです。」

わたしたちは、イエスさまを救い主と信じて受け入れたなら、洗礼を受けます。洗礼とは、聖霊によって、わたしたちが、イエスさまと一つに結び合わされることです。

そうして、わたしたちはイエスさまの体に結び合わされる。イエスさまが頭で、わたしたちはその体の部分、肢体（えだ）となる。そう、聖書は告げています。

そうであるなら、イエスさまが天におられる、ということは。わたしたちから見れば、わたしたちの体の一部が、最も大切な頭の部分が、今もうすでに天にある、ということです。

わたしたちは、わたしたちと一つの体となって下さったイエスさまが、天におられることで、すでに自分の体の一部を、天に持っていることになるのです。

そしてそのことは、世の終わりがきて、この地上のすべてを、神のご支配が覆いつくす時。わたしたちもまた、復活の体を与えられ、イエスさまがおられるところに、いることになる。イエスさまの御許に引き上げられ、このお方と共に天にいることになる。その保証なのだ、というのです。

今すでに、わたしたちと一体となって下さっている復活のイエスさまが、天におられるのですから、終わりの日には、天におられるイエスさまに結ばれているわたしたちも、また、復活して、イエスさまと共に天におかれるのです。

またそれは、今この時においては、この地上を歩んでいるわたしたちを通して、天の一部がこの地に現れている、ということも出来るのではないのでしょうか。わたしたちは、今この時も、天におられるイエスさまと結ばれた者として、この地上にいるからです。

イエスさまの救いを信じ、受け入れた者たちは、イエスさまのもとに集められ、洗礼を受け、イエスさまの体に結ばれて、イエスさまを信じる群れ、教会として、この地上の歴史の中を歩いていきます。それは、教会が、天におられるイエスさまの体の一部として、この地上に存在している、ということです。

ですから教会は、今ここにわたしたちは、イエスさまと結ばれて生きる恵み、天に繋がれている喜びを証ししつつ、まだイエスさまを知らない地上の人々を、イエスさまの御許へ、イエスさまの体へと、招くのです。

[③聖霊]

そして、最後の三つ目のイエスさまの昇天の恵み。それは、ハイデルベルクでこう書かれています。「第三に、この方がその保証のしるしとして、御自分の霊をわたしたちに送ってください、ということ。その御力によってわたしたちは、地上のことではなく、キリストが神の右に座しておられる天上のことを求めるのです。」

復活なされたイエスさまは、天に上げられました。その後、地上に残された弟子たちの上に、約束の聖霊が降りました。イエスさまが天に上げられることによって。そして聖霊が降って下さることによって。まさに、天と地はつながられ、わたしたちは天のイエスさまと一体となって、イエスさまへと心を高くあげつつ、地上を歩む者とされるのです。

先ほどは、イエスさまが天に上げられたことが、わたしたちもまた天へと引き上げられる、確かな保証なのだ、と言われていました。そしてイエスさまは、その保証のしるしとして、聖霊を送って下さった、というのです。聖霊は目に見えません。それなのに、保証のしるしである、というのは、ちょっと心許なく思うのでしょうか。

しかし、今ここで、イエスさまを信じ、洗礼を受け、イエスさまの体に結ばれた者たちの教会があり、神さまを礼拝していること。天を見上げていること。これこそ、聖霊のお働きによって実現していることです。

地上に生きるわたしたちが、天上のことを求めること。イエスさまに心を向けて歩むこと。これこそ、わたしたちが聖霊を受けていることの、確かな証拠なのです。

<天上のことを求めて>

本来、わたしたち罪人は、天に入る事など、決してできない者だったのです。神さまと、罪を犯したわたしたちとの間には、越えがたい、大きな隔りがあったのです。

しかし、神の御子の方から、わたしたち罪人の方へ、降ってこられた。わたしたちと同じになり、いや、それよりも低く降られ、わたしたちを罪の底から、死の谷間から、下から支えるようにして、下から包み込むようにして、すべてを受け止め、そして救い出して下さったのです。

そしてイエスさまは、そのわたしたちを、さらに天へと引き上げてくださいます。それは、終わりの日に、わたしたちの復活と共に、実現します。

でもそれは、たぶんそうなる、というような不確かな約束ではなく。あるかないかの希望なのではなく。イエスさまご自身が、死者の中から復活し、天にあげられ、今、まさにそこにおいて下さる、という現実に裏打ちされた、確かな保証付きの希望であり、約束なのです。

そしてそれは、ご自身の霊を送ってくださり、わたしたちが聖霊を受けることによって、確かなものとされているのです。

わたしたちも、イエスさまにあって、すでに天の一部に触れている。天の祝福を垣間見ている。だから、わたしたちは、この地上にあって、天を見上げて、イエスさまを見上げて、生きていくことが出来るのです。

地上のことだけを見つめるならば、欲望や、争いや、憎しみ、怒りなど、絶望することばかりです。悲しみ、苦しみ、悩みも多く、耐えられないと思うことばかりです。

しかし、この地上の苦しみや絶望を、そしてわたしたちの悲惨な罪を、すべてご存知でいて下さるイエスさまが。そして、それらすべてに打ち勝たれた方が。今や天に上り、聖霊を送って、わたしたちをご自分と結び付け、わたしたちをご自分の体の一部としたまま、天におられるのです。

この方が、片時も離れず、共にいて下さる。だから、わたしたちは地上にあって、天のこと、つまり、神さまの愛と祝福と恵みとを、見つめる続けることが出来るのです。

天におられる復活のイエスさまの御許こそ、わたしたちがやがて帰るべきところであり、すでに、わたしのための場所が用意されている。だからこそ、その確信によって、慰められ、励まされ、勇気づけられつつ、日々を歩いていくことが出来るのです。

天におられるイエスさまと結ばれている。わたしたちはこの方と片時も離れず共にある。それはまさに、生きるにも、死ぬにも、わたしたちの慰めであり、喜びなのです。

<聖餐の恵み>

今日、与る聖餐は、洗礼を受け、イエスさまと一つに結ばれた者が与るものです。

聖餐は、聖霊のお働きによって、パンと杯を通して、それを食べて飲むごとく。まさにイエスさまの肉と血にあずかり、イエスさまと深く一体にされ、この方の命に養われていることを、味わい知る時です。

また、終わりの日に招かれる、天に用意されたイエスさまの食卓を、少し先駆けて、この地上にありながら、垣間見させていただく時でもあります。

聖餐は、地上のことに疲れ果て、目の前のことに心を捕らわれ、すぐに弱ってしまうわたしたちの信仰を、励まし、強め、心を高く天にあげさせるために、イエスさまが用意して下さった恵みの食卓なのです。

わたしたちは、わたしたちの体の一部として、天にいて下さるイエスさまに、今日も心を向けたいのです。地上のことに心を惹かれず、神さまの恵みにこそ、心を惹かれて。天のことを求めて。主と共にある、慰めの日々を歩んでいきたいのです。

そして、一人でも多くの方が、共にこの主の体に結ばれ、共にこの食卓に与り、共に天を見上げて歩むことが出来ますようにと、祈り願います。

【お祈り】 天の父なる神さま 御名があがめられますように。

御子イエスさまが、わたしたちの罪の贖いを成し遂げ、復活して死に打ち勝ち、わたしたちのために、天にいて下さることを感謝いたします。

天におられる主に執り成されつつ。またわたしたちも、体の一部を天に持つ者とされている、その慰めと希望を確信しつつ。遣わして下さった聖霊によって、わたしたちが、心を高く天に上げて、神さまの愛と、赦しと、恵みを見つめて、日々を歩むことが出来るようにして下さい。そして、この地上にあって、天におられるイエスさまと結ばれ、共に歩む慰めと幸いを、証しすることが出来ますように。

イエスさまの御名によって祈ります。アーメン

【讃美歌】 336 「主の昇天こそ」

【信仰告白】 使徒信条

【聖餐】 **【讃美歌】** 81 「主の食卓を囲み」

【献金】 **【主の祈り】**

【讃美歌】 28 「天のみ民も」

【祝福】 主があなたを祝福し、あなたを守られるように。

主が御顔を向けてあなたを照らし あなたに恵みを与えられるように。

主が御顔をあなたに向けて あなたに平安を賜るように。

主イエス・キリストの恵み、神の愛、聖霊の交わりが、

あなたがた一同と共にあるように。

アーメン